2021 年度　報告書

グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」事業

特定非営利活動法人キッズバレイ
令和４年３月 31 日

2021 年度　報告書（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

特定非営利法人キッズバレイ
グリーフケア・ネットワークぐんま『ことのは』

以下の通り、グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」の桐生・みどり地域を拠点とした活動を報告いたします。

【広める】
アウトカム（当初設定）身近な人や協力団体から、グリーフの状況にある人に対して、グリーフケア及び
グリーフケア・ネットワークぐんま『ことのは』を紹介できる環境になる。

【当初設定】 講演会の開催 1 回（11 月） ■アウトプット：参加者 100 名	【実績】 11 月 28 日（日）講演会実施（ハイブリッド配信による） ■アウトプット：参加者　約 150 名
 	会場＋オンラインでの　ハイブリッド配信講演会を実施。 グリーフケア特別講演会『夜回り先生と考える　命』 〇本講演では、グリーフケアと「命」の観点から、夜回りを通じて、命に寄り添ってきた「夜回り先生」こと、花園大学客員教授・水谷青少年問題研究所所長　水谷修氏をお招きして講演会を開催。「生きること」「命とは」「グリーフとは」と、考えるきっかけとなればと思い企画した。 参加者は定員を超える 150 名。 対面では 50 名／オンライン（YouTube 限定配信）では 100 名。群馬県内だけでなく、北海道から沖縄まで、様々な地域からの参加があった。 講演会の冒頭の挨拶にて、『ことのは』の団体説明とともに「グリーフとは」「グリーフケアとは」の説明をすることにより、グリーフケアを知らない方へも周知できた。 〇講演後は、座談会・サポーター連携への問い合わせが多いことから、必要としている方へ届いていると実感する。引き続き、継続的に情報を届けられるよう活動していく。
【当初設定】 リーフレットの設置 ■アウトプット：80 か所	【実績】 引き続き、リーフレット・リーフレット立てを、グリーフを抱えた方が手に取れると想定される各事業所へ配布。今年度の活動に合わせて、前橋方面での事業所と積極的に連携をし、配布を行った。 リーフレットへは予定表を挟み込み、HP・Facebook を更新し、必要な方へ届けられるよう整備。 ■アウトプット：リーフレット設置箇所　約 85 箇所
	設置希望の各事業所へ持参・送付。 〇リーフレット 2 種類　当事者用・サポーター用 　当事者用：印刷済　9,003 部、うち配布済み　3,716 部 　サポーター用：印刷済　8,668 部、うち配布済　4,188 部 〇リーフレット立て 2 種類 　当事者用：印刷済　245 個、うち配布済　66 個（残 179 個） 　サポーター用：印刷済　255 個、うち配布済　77 個（残 178 個） 〇予定表作成（上半期・下半期）　印刷 〇ホームページ URL　https://cotonoha.info/ 〇FacebookURL　https://www.facebook.com/cotonoha.info

アウトカムに対する評価

参加者の中で、「『ことのは』を知人から紹介された」「リーフレットを保健師さんからいただいた」とお話して下さる方がいたことから、実際にリーフレットを手に取れる状況、グリーフケアが必要な方へ少しずつ情報が届いていると感じた。引き続き、情報を届けらるよう活動していく。

【ケアの場】

アウトカム（当初設定）

・大切な人を亡くした悲しい経験を話すことができ、安心して涙の流すことのできる場が地域にあることが浸透してくる。

【当初設定】 ・大切な人を亡くされた方座談会 2 回（桐生みどり）、3 回（太田、前橋） ・お子さんを亡くされた親座談会 2 回（桐生みどり）、1 回（前橋） ・ワークショップ　1 回（桐生みどり）、1 回（前橋） ・子どものためのグリーフケア　1 回 ・手作りサロン　隔月（桐生みどり） ■アウトプット ・グリーフケア座談会＆ワークショップ参加者　　120 名	【実績】 時期と開催場所を見直し実施した。 ・大切な人を亡くされた方　ことのはカフェ　6 回 （2021 年 7 月@前橋／2021 年 10 月@前橋／2021 年 12 月@桐生 2022 年 2 月@桐生、2022 年 3 月@前橋）15 名 ・お子さんを亡くした親　ことのはカフェ　3 回 （2021 年 4 月@桐生／2021 年 6 月@太田／2021 年 9 月@太田）6 名 ・ワークショップ　2 回 （2021 年 7 月 14 日@桐生／2022 年 1 月 16 日@前橋）4 名 ※途中 1 人お帰りになられたため、参加費は 3 名分 ・こどものためのグリーフケア　1 回 （2021 年 12 月 11 日@桐生）　大人 7 名／こども 11 名　合計 18 名 ・ことのはオープンデイ（手作りサロン）@桐生みどり　9 名 （2021 年 5 月 26 日／2021 年 9 月 22 日／2021 年 10 月 19 日／ 2021 年 11 月 24 日／2022 年 1 月 26 日／2022 年 3 月 23 日） ・個別相談　@桐生／ココトモ （2021 年 7 月 14 日／2021 年 10 月 21 日／ 2022 年 2 月 11 日）　3 名 ■アウトプット　参加者 55 名 （大切な人を亡くされた方：　15　名、お子さんを亡くされた方：　6　名、ワークショップ：4 名、こどものためのグリーフケア：18 名、オープンデイ：9 名、個別相談：3 名）
 	○昨年に引き続き、感染症対策をしっかりとしながら開催。声が小さくなりがちなことのはカフェでは、少人数での開催とし参加者の声が他の方にもしっかりと聞き取れ、気持ちを共有できる場となるように工夫した。 ○緊急事態宣言もあり、「行きたい、でも今は参加を控えようか」と、参加を迷われる方が多い印象だった。そういった方には、mail や電話にて気持ちをお伺いしたり、また個別相談としてお話を伺う場を提供した。 ○4 月開催の対象者は、「大切な人を亡くされた方」として計画していた。 申込の時点で「お子さんを亡くされた方」が多かったため、以前にお問い合わせを頂いていた「お子さんを亡くされた方」へお声がけをし、「お子さんを亡くされた方の座談会」として開催した。ファシリテーターもお子さんを亡くされた方が担当をすることで、涙を流し気持ちの共感を多く持てる場となったと感じた。話の中で「お花」をキーワードに、みなさんの気持ちが一つになっていった様子がうかがえたことから、オープンデイでは、今までご参加して下さった「お子さんを亡くされた方」へお声がけをし、「フラワーアレンジメント」を開催した。「うちの子は青色が好きだから」「うちの子のイメージは・・」など、お子さんのことを想い話しながら作れたことが、とてもよかったと感想をいただいた。 ○こどものグリーフケアにおいては、今までご参加いただいた親、兄弟を亡くされたお子さんへお声がけをし、「親子での交流」を自然とできるように、親子で触れ合いながらの運動を中心に開催した。参加者 7 組、お子さん人数 11 名。参加したお子さんの年齢は 5 歳から 10 歳。景色や空気の良い自然の中で、お子さんたちの輝くような笑顔が印象的だった。 外でのワークの後は、大人はグリーフ「悲嘆」についてのお話・お子さんには「いのちのふね」「かなしくなったらやってみて」の、えほんを読み聞かせをした。

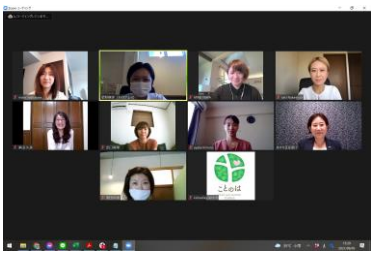
アウトカムに対する評価

参加者の多くは、「今のつらい状況はいつまで続くのか」・「同じ経験をされた方とお話したい」と参加される。ファシリテーターやスタッフも当事者ということもあり、同じ境遇の方とお話できる場として、安心して涙を流しご参加いただけていると評価できる。

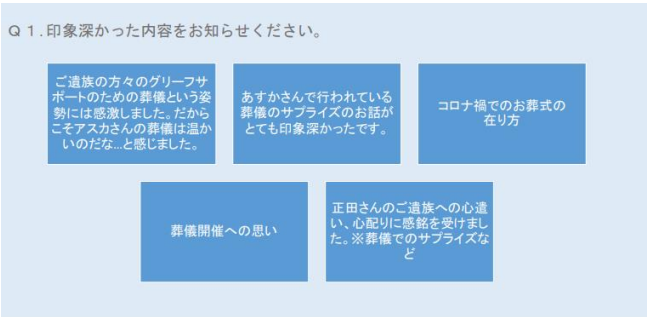
こどものグリーフケアで
読み聞かせをした「絵本」

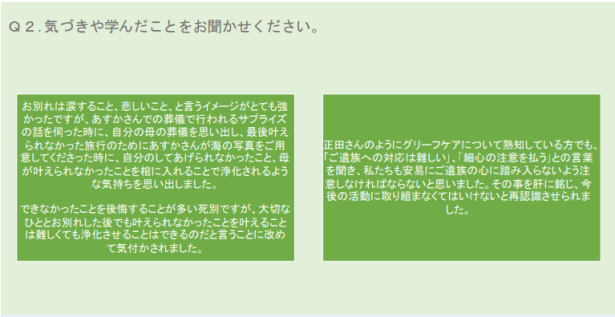
2021 年 10 月
オープンデイでは、お子さんを亡くされた方への開催として「フラワーアレンジメント」を実施。花かごはお子さんを亡くされた参加者の一人より「何かに使ってください」とご寄付を頂いたものを利用した。想いのつまった場となった。

【人材育成】
・県内各地でグリーフケアに携わりたい支援者が手を挙げられるようになる。

【当初設定】	【実績】
・ファシリテイターの養成 ■アウトプット ・ファシリテイター　15 名 ・ボランティア　20 名 ・支援者のためのハンドブック作成 ・グリーフケアサポーター入門講座＆説明会　2 回 ・グリーフケア支援者のための講座実施　2 回	○サポーターとして活動を希望の方へ、基礎講座・養成講座を受講していただく。 ■アウトプット ○ファシリテイター：3 名、ファシリテイター候補：4 名（計 7 名） ○ボランティア：8 名 ○支援者のためのハンドブック　作成途中 ○グリーフケアサポーター入門講座＆説明会　（2022 年 1 月）
	**受講** ・グリーフ専門士協会　オンラインによる受講　→2022 年 3 月受講 ・グリーフケア協会　オンラインによる受講→2021 年 7 月（2 名受講済） ・上智大学グリーフケア公開講座「悲嘆について学ぶ」 オンラインによる受講 ・勉強会 「ご葬儀におけるグリーフサポート」 オンラインによる受講 2021 年 8 月 5 日開催（10 名受講）講師：あすかセレモ株式会社　正田様 ・勉強会 「みかたになりきるコミュニケーション講座」 オンラインによる受講 2021 年 11 月 9 日開催（11 名受講） 講師：NPO 法人日本ゲートキーパー協会　大小原利信様 ・勉強会 「周産期グリーフケア勉強会」 2022 年 3 月 25 日開催（9 名受講） 講師：周産期はちどりプロジェクト　大竹様・遠藤様

リーフレットや SNS を見てお声がけいただいたり、グリーフを抱えた当事者からも「サポートしたい」と、お問い合わせをいただくことが多い。ファシリテーター候補については、勉強会の実施や月に 1 回「サポーター交流会」を開き、座談会などの参加者の状況や、今後の改善点について話し合う場を設けた。ファシリテーターになるまでのマニュアルの作成や、支援者のハンドブックについて今後作成予定。ファシリテーターやサポーターのセルフケアにも注意していきたい。





21 年 8 月開催：「ご葬儀におけるグリーフサポート」　参加者アンケートより

【基盤形成】

【当初設定】 協力団体を募る ■アウトプット ・協力団体７社	【実績】 ■アウトプット 〇協力団体（賛助会員）　３社 〇個人（賛助会員）３名 〇引き続き、桐生、みどり地区を中心にリーフレット・グリーフケア講演会への声がけをきっかけとし、協力団体を募った。 〇積極的に、連携できるよう他団体へ声がけを行った。
	〇他団体へ向けて 「グリーフ・グリーフケアとは」について、説明会を実施。 ３社にて実施（桐生信用金庫様／コープぐんま様／群馬中央医療生協様） 〇協力団体にて、リーフレットを設置いただき、グリーフを抱えた方へお渡し頂くことができた。
コロナ禍において、対面での説明が難しい状況が続いたため、オンラインでの説明や声がけとなった。 引き続き、『ことのは』へご協力いただける協力団体を、募っていく。	

メディア等　掲載

「HOME　BANK」 2021AUTUMN 号

「ココロ日和」（有限会社 COCO-LO 発行）

受配表示（事務局　ココトモ受付）